RIPPLE SAILING CLUB
NO.93

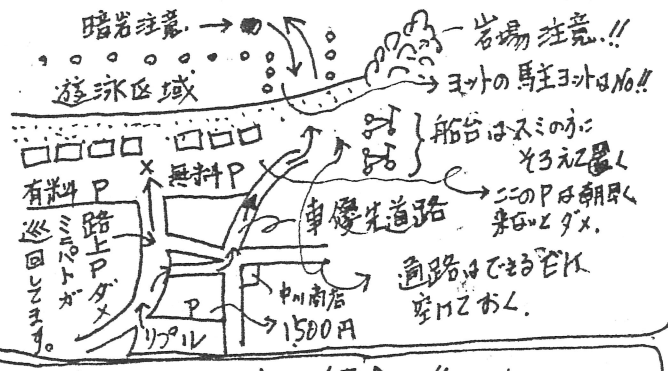
月刊 1990・6・15

RIPPLE

（発行） 500円
リプル・セイリングクラブ
〒238−03
神奈川県横須賀市長井2−11−1
TEL 0468−57−1711

出艇場所が変わります（7月1日(日)より）

うっとおしい梅雨の季節になっちゃいましたねー。ここ長浜は難民キャンプの様な海の家が立ち並び始めちゃうし、我々セーラーにとって受難の季節になっちゃいますね。
毎年の事ですが7月1日より今まで出していた中央の所からは出せなくなります。
そこで、幾つかのお願いですが海までは裏道を通って行き海に向かって右端じの航路より出艇して下さい。
裏道ですが車がやっと一台通れる位の幅しか無く途中必ずといっていいほど車とすれ違うわけですが、そんな時は民家の庭をちょっとお借りして車優先といきましょう。なんてったって生活道路として使用している村民に取ってはただただ邪魔なセーラーとしか映らないのですから。
また、使用した船台は隅の方へきれいに揃えて通路を塞がないようにして下さい。
そして遊泳エリアと帆走エリアとはオレンジ色のブイで仕切ってありますので、もし遊泳エリアに間違って入ってしまったら人力により至急に出るようにして下さい。
まー始めと終わりはちょっとしんどいですが、シーブリーズをいっぱいに受けスプレーを浴びながらのセーリングは応えられないものが有りますので、こんな事にめげずにセーリングに来て下さい。
またこの時期の出艇は幅が30m位の所をデッドゾーンに向かってクローズホールドで出て行くのでちょっとしたテクが必要です。不安な方はVol.57を参照して下さい。



新アルバイト紹介!!

新しいスタッフの紹介です。
横須賀市在住の当年取って18歳の伊東直之君です（バイト初日はホッパーの伊藤さんが居たのでちょっとまご付きました）。
ここへ来る前は今流行のプーターローをしていたそうです。来年の専門学校へ行く為の資金を稼ぎたいということです。マリンスポーツとは18年間縁が無かった彼ですが、友人より中古のボードを貰ったのでこの機に挑戦してみようということですので、機会が有ったら指導して下さい。

花火大会を見ようぜ.

来る7月14日（土）久里浜の花火大会が行われます、ここは一つ我がリプル号に乗り海上から見学をしてみませんか？。
セーリングの後立ち寄っても良いし、夕涼み（まだ梅雨の寒い空か）がてらに夕方出航なんかでも良いし、ま、とにかく空と海面に映る二大スペクトラをビール片手に満喫致しましょう。
参加者はTELにて受付致します。（早い者順で締め切ります）

保管金・会費のお願い.

保管金、会費の件ですが今月に支払い期日の来ている人にお願いがあります。
会員の方にもいろいろと諸事情が有ろうかと思いますが、今月は当リプルの中間決算期に当り回収率を100%目指したいと考えておりまして、期日までの御支払いを是非お願い致します。
また、期日までに御支払いが無き場合は、こちらからお願いと確認の催促の連絡をさせて頂きますのでご了承下さい。

長谷川.川上弘子チーム区間優勝のヨット駅伝

去る6月3日素晴らしい快晴の中恒例のスポット対抗ヨット駅伝が行われました。
今年はここ長浜を離れ久しぶりに逗子海岸で行われたこともあり、参加者の確保に苦労致しました。2チームの選手団を考えていた訳ですがどうにか1チームだけが出来、9名の選手団での出場でした。
成績は総合優勝が地の利を活かしたマリンボックス100チームが総合優勝をし、また我がリプルは11チーム中総合4位とまあまあの成績でしたが長谷川、川上弘子チームが第2区で区間優勝と言う素晴らしい成績でした。
今年は恒例の御輿が無かったので盛り上がりにいまいち欠けていましたが来年は復活させようと思います。
参加者の皆さんお疲れさまでした。
連絡会のこの次のイベントと致しまして10月28日に行われる湘南カップが有りますので、日頃からセーリング技術をUPさせて於て下さい。

DNFの東京湾オープンレガッタ

去る5月27日我がリプル号は三浦海岸沖で行われた東京湾オープンレガッタに出場してまいりました。
レース前日ホストポートであるコーチヤの桟橋に我が艇を着ける夕方頃には既に何隻かの艇がもやってあり、それらを見て一瞬我々は身構えざるを得なかったのである。それもその筈である、IORのレースでなくお遊びレースという振れ込みであるから参加したものの目の前にあるのはファー、高井、横山氏らの設計のいかにもレース艇！と言った感じの艇がもやってあるのである。それに比べ我がリプル号はビュンビュン吹いて7ノットがせいぜいのどん亀艇で有るので驚きは想像出来るでしょう。
でも、しばらくすると我がリプルの誰からか薄汚れたダクロンのセールを見ながら”醤油で煮締めてマジックで線を入れ隣のセールの様ににしちゃうか”等と冗談も飛び出し立ち直りの早い面々にほっとしたものである。
明けてレース当日、快晴に恵まれたデッキの上にはコーヒーがかぐわしい香りを立てていたのであるが、クルーザー入門と言う本のスピンの所を見入っている人達が居るのである。ディンギーでは経験有るもののクルーザーとなると生まれて初めてスピンを上げる人達だけであるから無理の無い事である。そして、8名の乗組員の誰もがスピンスタートでないことを祈りながらレース海面に向かったのである。
スタート時刻の11：00上有利なベストポジションに付けた我がリプル号はこりゃーもしかするとレーティングでシングルも夢でないなーなんてデッキ上は盛り上がったものである。
がしかし、世の常でそんなには甘くなかったのである。
北風の微風に近い風速の中、艇は進んではいるもののスタートラインがどんどん逃ざかって行くのである。潮の流れがものすごいのである。時間と共に風速は無風の状態になりラインは遥か彼方と言った感じになってしまった。一方東京湾を知り尽くした強者どもは下スタートで反流に乗りその差は、方やマイナス方向、方やプラス方向とラインを切る前に決着が付いてしまっていたのである。
風が南に変わり初めてなのでミスを犯しながらスピンアップをしスピンランでスタートラインを切ったのはなんとスタート時刻よりも40分も経過してからである。
60数艇の内半数は既にクローズホールドで目の前に走って来ると言うのに残された30数艇は華やかなスピンを上げて数キロ近くの遥か彼方の下マークに向かって走っているというレース展開になってしまった。その差およそ10km！。5ノットだと2時間の差である。”アッチャー！”
時間と共に風速も6m／sに上がり快適セーリングになって来たのであるが、いかんせんタイムアウトの14：00は刻々と迫ってきたのである。既に下マーク近くの艇は諦め上ってこない艇も続出する中、とにかくフィニッシュラインだけは切ろうと言う意見にまとまるのには時間はいらなかった。時計を視ながらラインに向かう乗組員は何とか間に合ってくれと心で叫んだに違いない。
14：03．35’本部船ではそそくさと帰り支度をしているスタッフを横目に我がリプル号は白波が出始めた海面を、時々スプレーを浴びながら人知れずフィニッシュラインを切ったのである。
興奮の余り罵声の飛び交ったデッキ上ではあるが、帰路に付く艇の上ではビール片手の8名の満身の笑みが溢れていたのである。
※石原裕次郎メモリアルレースは頑張るぞー！！！

＊入口にカギを付けました。Noは昔と同じ036です。（しまりが悪かったら柱を引っぱって下さい）